

2012年度 公益社団法人乙訓青年会議所
理事長所信

公益社団法人乙訓青年会議所
理事長 坂田 徹

はじめに

団塊世代の方々が退職の時期を迎え、第二次ベビーブームに生まれた私たちが、責任ある世代として本格的に社会を牽引する時代になりました。戦後の焼野原から立ち上がった先人たちは、東京オリンピック開催を目前に、日本国民の夢を乗せて、新幹線を走らせました。また、当時は夢物語としか思われなかったような、暮らしを豊かにする製品を次々と現実のものとして生み出してきました。その結果、戦後復興が成し遂げられ、先進国の仲間入りを果たしたこの国の経済的発展が、永続する事を誰もが信じて疑いませんでした。そして、高度経済成長の時代に生まれ育った私たちの周りにはモノが溢れ、より物質的な豊かさを求める為にいつも誰かと競争し、いつも何かを天秤に掛けて育ってきたように思います。協調性を中心とした教育を受けながらも常に人より上に自分を表現する事を求められてきた私たちが社会へ翔こうとした時、私たちを待っていた社会はバブル経済の終焉に続く今日までの混沌とした経済の停滞でした。

「失われた20年」と言われる長期の景気低迷、財政赤字、様々な問題を抱える中、2011年3月11日、東日本大震災が発生しました。愛するまちや思い出が一瞬にして津波に飲み込まれていく光景は、絶望感に駆り立てられ、日本ばかりか世界中が深い悲しみに包まれました。更には震災の影響による福島原子力発電所の事故により、震災後も多くの問題を抱えております。この未曾有の大震災が、戦後から追い求めてきた物質的な豊かさから、心の豊かさが必要とされる転換期ではないでしょうか。この震災後の社会を我々青年が、今一度青年会議所の原点に立ち返り、「新日本の再建は我々青年の使命である」という先人たちの志を受け継ぎ、戦後復興に次ぐ再生を目指した行動を起こす事が必要です。

楽志伝承

天台宗の大阿闍梨が、比叡山で千日回峰行という厳しい修行を行う高僧に贈った言葉のひとつに「楽志」という言葉があります。その言葉の由来としては、苦しいだけの修行では何も得るものはなく、楽しむ心を見出す事で気付きや学びを得る事が出来るという意味です。

人生も会社経営も常に楽な事ばかりではなく、苦難の連続であるように思います。苦難も自己の成長の為と捉えて楽しむ事が出来れば、必ず自己の成長に繋がります。楽しみながら前向きなイメージで取り組んだ時、その過程が苦しくても結果は驚くほど素晴らしいものになったという経験が皆さんにもあると思います。また、青年会議所の修練も同じように、苦しく耐え忍び、やらされている活動であっては何の意味もなさず成長はありません。したがって、我々メンバー一人ひとりが、常に楽しむ心を持ち、未来に対する明るい豊かな乙訓のイメージを増幅させて活動する事が大切です。更に、JAYCEEとしての自覚と責任を持ち、先輩諸兄より受け継いだ志を変える事なく次代へと伝承する事が使命です。

人と人を繋ぐ乙訓を創造しよう

乙訓青年会議所が活動する二市一町は京都と大阪の中間の位置にあり交通の要所としても利便性が高く、自然と歴史に恵まれた住みやすいまちです。全国的に人口が減少するまちが多い中、乙訓地域の人口は増加傾向にありますが、共働きや子どもの減少などにより地域のコミュニティが希薄になってきていると感じます。しかしながら、東日本大震災の報道を通して我々は、地域住民同士の繋がりや地域コミュニティの重要性を再認識したのではないのでしょうか。私はまちを形成するのは人と人の繋がりであると考えます。今一度、我々が地域のリーダーとして、この地域の皆様と共に独自性のある地域活性の為、地域のコミュニティの活性化と文化醸成運動を行っていく事が地域の誇りになると考えます。また、その誇りが次代を担う子どもたちの郷土愛を育てる事に繋がると確信します。

まちづくり運動では、乙訓青年会議所の代表的な事業として、地域のコミュニティの活性化と文化醸成運動の一環とした乙訓水辺フェスティバルを開催しています。この事業は、実質7年目を迎える事となり、将来性を考えて発展させ、更に価値ある事業にしていく必要があります。その為には、今一度、乙訓地域の財産とも言うべき歴史や文化、自然を見直し、まちおこしに繋がるアイテムを発掘すると共に、行政、地域諸団体、市民が三位一体となる連携強化の促進に努める事が重要です。そして、明るい豊かな社会の実現を掲げる団体として、この乙訓の未来を語れるメンバーが必要です。地域に根ざしたメンバー一人ひとりが、愛する乙訓の未来を語り合い、英知を集めたまちづくりを提案し、具現化しなければなりません。我々が提案し具現化した事業が地域に浸透していく中で行政、地域諸団体、市民が参画頂く事により、三位一体となった人と人の繋がる乙訓が実現し、ひいてはビジョン達成に繋がると確信します。

青少年育成事業としては、乙訓ふるさとふれあい駅伝、ケイジャーズカップ、文化少年団など数々の事業を行っており、実績を積み重ねてきました。次代を担う子どもたちがこの地域を愛し、郷土愛を育む事が重要です。その為にも、青少年育成事業では地域の歴史や文化、道徳心をテーマに地域の大人として我々が、次代の子どもたちに引き継いでいかなければなりません。しかし、次代の子どもたちを育てなくてはならない大人にもまだまだ問題があります。現在でも子どもの虐待や育児放棄、青少年犯罪などしばしば新聞やニュースの報道を通して見られますが、その原因になっているのは子どもを育てる大人の道徳心や大人と子どものコミュニケーション不足が原因ではないのでしょうか。我々が親としてのあり方や子どもたちを取り巻く環境を見直し、子を持つ親として、地域の大人としての道徳心を養い、他人の子どもも地域の宝として育てる意識を持った大人を増やしていく事も必要であると考えます。子どもたちの将来や地域の未来を考え、今出来る事を地域の皆様と共に実践する事で、次代を担う青少年の健全な育成に繋がると確信します。

自分を磨きオンリーワンを目指そう

今日の日本は、政治、経済と多くの問題を抱え、国難の時代を迎えております。この国難の時代にこそ地域や国を支える我々の世代が、資質向上を目指し、地域のリーダーとして行動する事が必要なのではないのでしょうか。また、戦後の教育は協調性を中心とした集団教育が行われてきましたが、転換期である現在であるからこそ、今後のリーダー像は独自性を持ったオンリーワンな人材でなければならないと私は考えます。地域のリーダーとして我々が資質向上を目指すと同時に、地域の青年経済人としての経営力を向上させる事が、地域を活性化し国難に立ち向かえる事に繋がるはずです。

青年会議所は、そもそも活動を通じて地域のリーダー、JAYCEE作りをする学校のような側面があると考えます。私は入会以来、真のリーダーと呼ぶにふさわしい先輩諸兄の背中を数多く見てきました。気概を持って、時にはぶつかり合いながらも真剣に活動され、卒業後も多くの方が乙訓^{まら}の発展の為に活躍されておられます。また我々も一人ひとりが周りに対して高い求心力と影響力を発揮出来る真のリーダーとしての資質を身に付けなければなりません。その為には、確かな見識と揺るぎない信念を持ち、不屈のチャレンジ精神を持って行動する事が必要です。また、頭で物事を捉える事よりも汗を掻き、率先して行動する事が何よりも大切です。この様に自己の資質を高め、真のリーダーといえる誇り高い青年となって仲間と共に活動する事が、この地域を創造する我々の使命です。また、様々な活動の中で自分の意思と力で独自性を獲得する事でオンリーワンの人材へと成長す

事が出来ると思います。このような人材を継続的に地域に送り出していく事が明るい豊かな社会の実現に繋がると確信します。

経済も含め社会全体が楽観出来る状態ではありませんが、世界からは日本の企業に対する経営の道徳観やものづくりの技術などが評価されています。また、経済が低迷する状況の中でも業績を伸ばしている企業が、存在する事を認識しなければなりません。そして、我々青年会議所メンバーは地域の青年経済人として常に経営力を養い、企業活動を行う事が重要であると考えます。まず、企業を存続、発展させる為には自社の経営状況を把握する事から始めていく必要があります。そして、自社の経営環境を考慮しながら他社との違いを鮮明に打ち出し、個々の企業の独自性を追求する事が発展へと繋がると考えます。これらの事を踏まえ、尚且つ発想力豊かな経営者の育成が、この地域からオンリーワンの経営者や企業を多数輩出する事に繋がり、ひいては地域経済の活性化に繋がると確信します。

仲間と共に魅力ある組織を創ろう

青年会議所は理念の達成に向けて組織として運動を行う団体です。公益な団体として地域の皆様から信頼と共感を得る事の出来る魅力ある組織として活動しなければなりません。また、地域に根ざした活動を行う中で、我々の理念と共に乙訓青年会議所の魅力を伝承していく事が組織基盤の安定に繋がると考えます。

乙訓青年会議所が魅力ある組織として活動していく為には会員の交流は欠かせません。メンバーだけでなく、地域の皆様と共に協力しながら多くの事業を開催するには、J A Y C E Eとしての自覚と責任を持ち、組織として一致団結していかなければなりません。そして、メンバー同士が互いを尊重し、助け合う精神を持ち、様々な活動を通して信頼を築いていく事が重要です。また、青年会議所や会社、将来の事を語り合っつて絆を深める事が大切です。目的意識を持ち、メンバー間の仲間意識を確立させる事でより良い青年会議所運動が出来ると思います。青年会議所運動には、三信条「奉仕、修練、友情」があり、この言葉の通り、奉仕はサービスやボランティア精神、修練は個人の自己啓発です。これらを通して仲間との友情を育む事が出来ます。更に、メンバーが一丸となって活動を真剣に取り組み、目標を達成する事で更なる真の友情が芽生えてきます。この真の友情とは「ええもんはええ、あかんもんはあかん」と本音で言い合える信頼関係であり、そのような仲間との友情を育める事や、世代を越えた繋がりが青年会議所の魅力であり、存続する理由であると考えます。そして、どんな苦難にも共に助け合う事の出来る生涯を通しての友が出来ると思います。青年会議所にはJ C Iをはじめ、日本青年会議所、近畿地区協議会、

京都ブロック協議会と様々な学びの場があり、出向やそれぞれの事業に参加する機会があります。これらの学び多い機会にチャンスを見逃さず積極的に事業に参加する事で、新たな仲間と出会い、気付きや刺激を受ける事が出来ます。チャレンジ精神をもって様々な青年会議所活動に参加して、視野を広げ生涯の糧にしていく事が大切です。

我々の理念を実現させるには、活動を共にする同志を一人でも多く募り、より広く地域の皆様に青年会議所運動を展開する事にあります。会員拡大については近年、全国的に会員の減少が進む中、乙訓青年会議所は増加傾向にあります。この点においては、担当委員会だけでなく、全メンバーの努力により成功を収めていると考えますが、これから3年間で約半数のメンバーが卒業する事となり、組織基盤を安定させる為にも会員拡大は必要不可欠です。その為には、これまでと同様にメンバー全員が常に意識を持ち、魅力ある組織の一員として明るく元気な姿を見せ、青年会議所の魅力を伝える事が必要です。また、多くのメンバーが入れ替わり、組織が活性化される事は良い事ですが、新たなメンバーには青年会議所が明るい豊かな社会の実現という崇高な理念と共に、先輩諸兄から受け継いだ貴重な教えや経験を伝承しなければなりません。その為にはメンバー一人ひとりが気概を持ち、青年会議所の活動意義を理解して行動する事が重要です。我々の理念や活動に賛同する新たなメンバーの加入が、組織を活発化させ更に魅力ある組織になると確信します。

組織進化を図り信頼性のある運営を行おう

昨年度、国の公益法人制度改革を受け社団法人乙訓青年会議所は、新たに公益社団法人乙訓青年会議所としてスタートしました。今年度は乙訓青年会議所としては33年目であると共に、公益社団法人としては実質的に初年度であるとも言えます。財務処理や事業内容の変更、地域に開かれた学びの場として事業を行う必要があります。そして、公益社団法人として、今までと異なる組織運営を行っていく必要がありますが、青年会議所運動の明るい豊かな社会の実現の理念は不変のものとして、今後とも先輩諸兄が築いてこられた歴史に感謝し、その志を伝承していかなければなりません。今年度の活動が、永続する乙訓青年会議所のスタンダードになる事を意識して業務を精査していく事が求められます。

乙訓青年会議所の1年間の運営としては、12回の例会と様々な事業があります。これらの全ては諸会議での決定により実施されています。公益社団法人として社会に順応していく能力を身に付け、新たに事業内容や予算などの細分化したチェック機能を持つ事で組織進化を図り、地域から信頼される公益性と透明性のある組織基盤を確立する事が必要です。また、諸会議の運営においては、より精度の高い議論を交わせるように考慮し、我々

の運動が効果的に行われるよう議案上程のシステムやルールを周知徹底しなければなりません。これらの効率的、効果的な運営の在り方を再構築する事により、将来の青年会議所運動の発展に繋がるものと考えます。

公益社団法人として運動していくには、公益事業への予算を増やしていく必要があります。その為には、今までの事業をしっかりと見直していかなければなりません。また、各例会や事業での予算書の審査においては、適正な予算編成がなされているかのチェック機関を設ける事で、より厳密に公益社団法人としての公益性のある運営を目指し、組織進化を図る必要があります。そして、公益性と共にコンプライアンスに対する管理体制を確立し明確なルールのもと法令遵守を行う事が不可欠です。例えば、対内対外への発刊物や対外的な事業の中で利用する映像や音楽などの中にも知的財産が多く含まれており、その権利を保護する為にも著作権などの理解と遵守が必要となります。この他にも、我々は地域における存在意義向上の為に、魅力ある青年会議所運動を地域の皆様に情報発信し、更なる理解を深めなければなりません。そのツールとして広報誌やホームページの内容も行政や地域の取り組みを乙訓青年会議所の事業と共に掲載していく事が大切です。そして今後も、乙訓青年会議所と行政、地域諸団体と互いの繋がりを更に深める事が大切です。今年度は組織の枠組みとしての地域になくてもならない団体として進化し、信頼性のある運営を行う必要があります。また、この1年がこれから先の乙訓青年会議所の道しるべとなる事の重要性を理解して運動を展開しなくてはなりません。

むすびに

青年会議所は自分を育ててくれる大人の学校です。まちづくりやひとづくりなど、様々な明るい豊かな社会の実現に向けた活動の中で、多くの学びや刺激を受けて自己成長する事が出来ます。メンバー一人ひとりが与えられた新たな担いを全うする為にも、どんな困難にも楽しむ心を持ち、切磋琢磨する事が必要です。また私は、この自分とその周りを育ててくれる、大人の学校としての青年会議所は変える事なく次代に伝承しなければならないと考えます。

混沌とした時代、今を生きる我々が、この国の為に、地域の為に信じあえる仲間と共に堅固なスクラムを組み、一步ずつ前進していかなければなりません。40歳までの限られた時間の中で、仲間と共に乙訓の未来を描き出し、高い志と屈する事のないチャレンジ精神で青年会議所運動を進めていく我々青年の姿は、必ず地域の皆様の心を魅了させ、笑顔があふれる「市民が主役」の乙訓の創造へと繋がると確信します。